

朝日銅鐸

弥生時代後期

朝日銅鐸は、南居住域の南端、弥生後期の環濠と方形周溝墓とのわずか3メートルほどの間で発見された。長さ0.6メートルの楕円形の坑に、鰭を上にした横向きの状態で納められていた。意図的に集落の南端に埋められたものとみられる。

銅鐸は弥生時代を代表する国産青銅器の一つで、農耕祭祀に用いられた祭器である。銅鐸の多くは、集落から離れた、山の中腹、谷の奥などで偶然発見されたものであるが、まれに朝日遺跡のように集落内に埋納された例が知られている。



内側

銅鐸飾耳



朝日銅鐸とは別地点で出土した近畿式銅鐸の飾耳部分の破片である。

銅鐸の埋納位置と出土状況

